静

かっているか

 \mathcal{O}

のように

なっ

参り

ź

は

さ

る ま

L

け 向

れ

がども、

相

手は、

L

3

1

れ、ス

l

上げる次第です。

おの

健

B

か

に

お過ごし下さ

1 \$

ま

す

よう

お 8 ゥ て

祈 6

n

申

っ類前

こと、 た。 化に

皆

様

方に

は、今後

用

心

に لح

努 V

る

義太夫協 **過会会長** 原 道 生

よろ イ ル 令 ス しく け 0 ま 蔓 L 延 \mathcal{O} 願 て 火狀態 春 11 お 以 いたしま 来続 ŧ でとうござ さいわ 11 7 V **!** る 1 新 ま す。 カン 型 なり コ 口 本 \mathcal{O} ナ 年 沈 ウ

るル虚そ文曲在 す ところで、 に 楽 る 側 \mathcal{O} 系 t 日 あ 0 邦 本に伝 0 世 伝 \mathcal{O} て 界 を 舞 統 -つ 芸 7 \mathcal{O} 用 • て は 邦 能 わる古典文化、 話 創 11 もとよ Ŕ た表現活 楽 題は大きく変 芸」 造 例えば、 など、 を目ざそうと 特 لح て 别 り、 V) もつ ょ 動 うことが 能 重 を 11 中 で 要 通ば わ n 狂 する -でも、 L な を ī 5 ŋ 言 要因 て、 ょ 享 演 ま う。 受 表 諸 者 す 歌 ジャン 式現をす 歌が لح 独 \mathcal{O} 舞 して 鑑賞 身体 自 そ 伎 音 現 \mathcal{O}

> う 目 笛

> > 義太夫協会会報 第113号

令和4年1月1日

般社団法人 義太夫協会 発行

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3-1-6 日本橋永谷ビル 210 Tel. 03 (6265) 1880 Fax. 03 (6265) 1881 http://www.gidayu.or.jp

他

ま

せ

ん。

そ

L な 識 れ

て、 ŋ

さら

に

そ

 \mathcal{O}

約

世

紀

そ

11

て

0)

認

識

は

さ な to

が な ぬ で

深 け 稽 あ

5

れ な 継

る 5 続

至

0

ると う点

う まで

事

実

めれ

ば \mathcal{O}

な

11 蓄 習

カュ 積

لح

5

古 ŋ

が、 する

どん

なに

大

切

 \mathcal{O}

そ

n

を

た

に

は、

な場 てそのことは、 一会に関する。 11 かと思われ しても、 ま 私 その ども ま 義 ま 太 夫協 当 7 会 は ま \mathcal{O} る 諸 \mathcal{O} 活 で動 は \mathcal{O}

て、

を

帯び

つ

う、

化 通

を

す

る

 \mathcal{O} に

9

ŋ

能

5

自 L

 \Diamond ょ

 \hat{O}

し 口

11

体 者、

験

基 ま

一づく多

遂

形 り

 \mathcal{O} 具

とし

て、

~ と

な能継

 \mathcal{O}

核

を

形 果 ŧ 体 実 演 0

成 T \mathcal{O} 性

でする上

で

 \mathcal{O} ま 中

不 で 世

可 ŧ 末 本 < 楽 世

欠

な な 5 的 著 係 弥

要 る 近 な 作 者 を

因 伝 世 深 を た 始 \mathcal{O}

と

承 げ

れ、

は

現

代

連 カュ 質 \mathcal{O} 関 Spl 後、

統

芸

2

7 中 さ た ょ 厳 プ

きて

いるの

で

L

た。

いって、 あ れ ŋ てきたか ます 義太夫節 今回 が 、うも .. の は、 流 辿 $\bar{\mathcal{O}}$ に 0 れ てみ が、 とっても \mathcal{O} お 跡 正 どの を、 ようと 月 5 ごく ように 最 L 思 重 < 大雑 要 少 事 ま L Þ て自 す。 把 項 カン で L 覚 あ で

です きも ر ح て 草 てきます。 が、 は の中 \mathcal{O} ゆ 時 \mathcal{O} 世 そ 代に比 文学作 ح が 関 様 < 前 ٤ 自 できるでしょう。 心 \mathcal{O} ては 流 が 他 今、 十三・ ベ が 5 品 広 琵 \mathcal{O} 琶・ て、 \Diamond 深 進 歌 軍 \mathcal{O} \mathcal{O} その 6 記 上 徒 一などに 且 等 井 物 ず 然草 れ 兀 力、 つつ 基• そうし 0 世 語 0 端 と多く を 高 Þ 紀 を、]などが 中で . 見ら. あるさま 多 舞 身 説 に 彩 た に 水 • 話 なると、 『方丈記』 付 ŧ 集の 準 な 弓 n \mathcal{O} を け 代 術 るように 「芸」の 中 備 表 注 うと そ 的 馬 カン \mathcal{O} 目 え Þ す \mathcal{O} れ 本 な 術 ら 、『徒 す べが種 \mathcal{O} 挙 な 種 以

げ 然

ず まる では、 とに 本 解 し 結 T ると 合に 7 花 大 る 行 のち \mathcal{O} なう き 人 技 候 な 宇 捉 伝 な \$ みに、 芸」 な 間 術 0 治 1 え ょ 書 に、 で 影 え 7 0 的 表 加 \mathcal{O} と 中 いると なも とい る て 響を与え 賀 精 現 L に た。 今、 中 掾 で 創 神 活 11 ・う記 しょ あ 世 . う、 Þ 的 り \mathcal{O} 動 る、 を、 いう点 لح 竹 出 \mathcal{O} 私 う。 さ 演 述 最 が 倫 本 L てで 理 者 が 芸 末期 単 重 義 れ が で る 的 に 挙 は 視 太 L で 夫 か 特 価 は そ 自 げ 人 に な L ŧ \mathcal{O} ŧ 筆 値 ŧ な \mathcal{O} 身 5 \mathcal{O} 成 T \langle 知 浄 す \mathcal{O} \mathcal{O} 次 \mathcal{O} れ 心 77 1 元に と 5 瑠 ベ 高 身 ま ょ L る きも そ \mathcal{O} 体 り \mathcal{O} 11 た 彼 営為と 書 密 て れ \mathcal{O} を 出 5 \neg 接な を演留 そこ 用 るこ は、 \mathcal{O} 八 \mathcal{O} が 帖 見 11

表 現 に 努 ることができるでし \emptyset 味 る 線 義 \mathcal{O} 太 演 夫 節 を \mathcal{O} 通 l 芸 て、 \mathcal{O} 生 原 き た 点

(2022.1.1)

ナウ

木サ拶

は鈴原

実 木 会

は桂長、

義太夫教の一郎氏に、司会・ル

室お進

の願行

Bい元

νしH

たN

いのいは

لح

ーは

かり、八氏け

ち合わせから、

ろ

ろ

ま子は流回しは竹にの

本弥

乃

は 記

詳

細

を

知

べるも と決定

 \mathcal{O}

が L る

のお

念公演に

まし おら

た 生

が

本現は

音の非

在是

 \otimes

でたい

演 弥

目

で

あ

 \neg

長

音

鶴

澤

線

鶴

澤

寬

也

ツ

レ

鶴

澤

賀

は

望月

太

《左衛社中で、 が太夫より提供と

新

し

新たに: こて頂*

作き

しし

てた。

調 ま 朱

頂

太 大協 会 法 人 化 五〇 周 年記 念

公演

現に 長演 ることが 太夫協 七月 十八 度 緊急事態宣言が発 十八日に紀尾井ホー 会法人化五〇周年の ^できま. 0 延 関を経る =発 1 \mathcal{O} 度 令 ル 演 た奏会 目 ż [でえた たこと 開を に 催

生 目 殿 演 者 は 次 いの通 ŋ で す。

賀 浄 山花味瑠 線璃 .. 子 鶴 竹 澤 本 望 =越 月 寿 京 太々 左 · 竹 衛 鶴 本 社 澤 綾 津 賀 竹 榮 本京 鶴 之 濹 助 津

浄 味瑠 線 璃 竹 鶴 澤 本 津駒之の段 寿助

レ

鶴

濹

駒

治

姥

廓

噺

版 染作 歌 \$祭文**』** 本 野 崎 村 土

味 … .. 竹竹 本 越若 本 接 差 助 お久おの よ松光 うし· · · · 竹 竹本本 本佳 土 佐佐 之 恵子 助

うこ な ま K き囃源女今 L

左:『嫗山姥』廓噺の段 右上:『長生殿』

右下:『新版歌祭文』 野崎村の段





50 周年記念公演 YouTube 配信中!

令和4年1月1日~30日 〈1 か月限定配信〉

①『長生殿』演奏、進行役の鈴木桂一郎氏 による作品紹介、原道生会長挨拶

②『嫗山姥』廓噺の段の作品紹介と演奏 ③『新版歌祭文』 野崎村の段の作品紹介 と演奏

以上3本の動画が無料でご覧いただけま す。演奏の映像はカットなし! ぜひご覧 ください。



義太夫協会公式

YouTube チャンネル

https://www.youtube.com

/c/義太夫協会

更い ح 枚を予 \mathcal{O} す 席 前当 ること が数 後ともどうぞ 0 皆 日 を 関様、 繁に たしました。 ぱ 避 残 を 割 \mathcal{O} 楽屋 係 り 定してい けることを心 半分に減 換気、 で が 者 振 11 りを工夫い \mathcal{O} 0 ŧ

出

演

者

が

密に

なら

な

11

ょ

う

たし

まし

た。

消

毒 稽

に 古 長 が

め は

ま 広

た。 場 所 た

 \neg

生 け

いは三

を

ま

L

古

0

当 時

初点

枚五か

保に挺ら

し上げます 念ですど できまし É が、 皆 様 足 らさざるを得 を 多 \mathcal{O} 太 くの お たことは、 お 夫 陰 運 協 びく 制 会 限 を ださ 感 \mathcal{O} 中でなか よろ ひとえに 謝 ŧ L ます 2 気 演 < た 部 お ちお会実た

り上 が ŋ ま

(2022.1.1)

八月公 演 太夫教 室 • 袓 先 中

止

内容のパ 公演 義 太 版を予定 係 夫 特集につい 者 演 体調不良 奏 しており 月 民により ては、本 公 ŧ a す。 演 中 義 年 止 太 とな 八 夫 月 に ŋ \mathcal{O} 同ま怪

念波け ć V 義 たし 第五 '起こった新型コロ 太夫教 まし 波 0 室 た。 第七 影 響に 兀 期 より、 ーナウイ は B 昨 む ル 年 なく ス 春 \mathcal{O} カン 開 流 6 催 行 秋 第にか を 断

続 先祭 催 月二六 かも、 を 断 コ 念 日 口 ナ に 墓参 会長 禍 に 原 V お た道と生 V て まし が _ 代昨 た。 年に 表 し て、 引 き

音作約徒奈

あ め を か ん め む IJ 13 雷

切 で 演

さ 兀 二〇二一年十 あ 七 名)。 8 満 か 員 W とな むり りま 雨 月 0 した 女 雷 流 (] 雪〉」と 義 太 П 夫 ナ 演 禍 題 奏 で L 会 て \mathcal{O} 開 は 定 員催

た うし激にれ雨 危な です。「 L る 最 かす。 ŧ ほ 初 中い。 تلح は \mathcal{O} \bar{O} で あ を 演 越 雨大の雨 ŋ 深 幹 ですに 目 雪の日 É 線 は す で が 越 \neg が、は、 降る中を外に 放 \mathcal{O} さ 生 静岡 辺 れ 写 渡 り L ぬ朝 して」と Ú 大井川 る 顔 暗く、 時 掛 話 ĴΪ に は間 叫 出 がが 大 たら、 ま 思 0 W 井 V あ で た Ш ĴΪ う と 駆け 雨 を 止 \mathcal{O} 本当 馳 音 \otimes 段 ź 出の せい

7 定 菅 期 原 公演 伝 授 では 手習 初上 鑑 演 天 いでし 拝 Ш た。 \mathcal{O} 段 天 は 拝 雷 山

> 打の歌ののし めは 歌 忠 歌 たと 9 \mathcal{O} 太 だ \mathcal{O} を 節 は、「天拝 山 宰 です。 からこそ、「 いう言 で、 口にする を讃え、三つ子の境 府 菅 原 山のの 宮 場 伝 道 \mathcal{O} 真が何ある。 面 寺 は、 子 中 あ何 · 屋 」 で「 聴 り 度 標 で「松 11 遇 菅 ま t 高 て を嘆 す。「 登 約 丞 相 頂 る人 王丸が」こ 11 が Ŧi. て は \bigcirc 0 梅 詠 飛 天 Μ ん王だ丸 心

歩約 す 回 を \mathcal{O} 七 良最 0 [数を重 悉く吸 設 分 県 後 定は雨です \mathcal{O} 橿 は その 安楽寺には墓 定変 分 『傾 原 ね、 市、 11 \mathcal{O} 大きな 城 更に 、取り、 善 長く愛されて取り、儚く消息 恋 福 近 飛 寺に あ が、改作 鉄 き要因は1 り 橿 ま 碑 梅 原 新 L が川線 \Box は て来た よう。 雨 あり えてしまう雪。 忠 雪。 村 兵 新 カコ \mathcal{O} 5 光 ま 衛 段、 かす。 元を反 雪 口 「新 \mathcal{O} 供 雪 \mathcal{O} П 駅 射 近 養 で į 松原 かす。 思 碑 上 V がら

足 を 後 お運び下さ ŧ 様 々な企画 [を予 定 して おり 鶴 澤三寿 ま す。 々) ぜ

S

校 W

間) みよう! 京 文化芸術による子 之助 鶴 が 今年 澤弥 · 義 太 • 竹は Þ 大夫節 全 が 本 兀 参 寿 [1] (制: 加 Þ 校 穴で行 女、 L 供 ま 育 成総 L 鶴 わ 作 澤三 た。 れ、 :: 有 合 寿 竹 限 事 会 業 Þ 本 越 社 鶴 京 古 語 澤・ ・ 典 で 空 2 7

そ V 始 て れ \emptyset に 使 れ V い増 説 補 道 明 大江 義 具 し 太夫節 \mathcal{O} た . 山 紹 介、 戻 \mathcal{O} 校 役割等 歴 ŋ 歌が 史、 橋 \mathcal{O} 義太夫に を、 太夫と三 段 \mathcal{O} ス 演 ・クリ 奏 味を

プた子

努 で 好 口

8

V

لح

思

ま

す。

竹

本

た関

い同

係 L 太 夫節

者

公 度

演 t

 \mathcal{O}

ブ 択

ラ

ツ

ユ

ア ま

のが各

評

た。

来 に

年

採 会

が が

定

決 活

づ

触

れ

7

で義

|線聴

寿 本



代表生徒による発表の様子

を前 ワー 原 لح クショップで 伝 いう 授 (手習鑑 実 験 コ 1 練 車 ナ 習し 曳] \mathcal{O} に た代 段続 \mathcal{O} き 表 ま 生徒 す。 部 分を、 その が 肩 後

- 涙 た で 大笑 < 5 様 付 た。 П むの Þ け 上 V) 先 生 な て 生も き生きとした発 行 元 で更 で 気に語 事が 最 11 まし 中止 後 E \mathcal{O} る 盛 演 た。 り に 姿に、「昨 になって 上 が 後 表 かり、 半 を 車 曳」 は 見 1 年 そ たの から 語 て を \mathcal{O} り 感 演奏し で、 コロ \mathcal{O} 無 体 <u>ポ</u> ナ 生 験 徒 禍 衣 事 ま員

義太夫協会会報 第 113 号

豆 ロナ 禍 での取 兪 信特

な \mathcal{O} 二〇二〇年春 配 演 |信の取組が行われています。 奏会が中止 - 止になる中、 正会員による様 ナ 禍 の影響で多く K

可能なものもございます。ぜひご覧くださ 〈二〇二〇年〉 以 下、 主な取組を列挙しました。 まだ視聴

五月一~十五日 二〇一四年「NYジャパン 六月九日~アー 鶴澤津賀花 、サイエティ公演」 竹本駒之助、 トに 工 1 ル を! 「ペンキ屋 鶴澤悠美、

· 六月~ 宇佐見」鶴澤慎 図夢歌舞伎 「忠臣蔵」竹 本葵太夫

七月二三日~アートにエールを! D邦楽がたり「ざしきぼっこ」鶴澤津賀寿 ちーむ

ンネル開設 七月二五日 義太夫協会公式 YouTube チャ

八月二九日 中村吉 十月一日 磨浦」竹本葵太夫 「藤舎千穂 右 衛門 配 信 特 お 別 囃子ライ 公 演 . 「須

十月二日 古柳 その参」鶴澤津賀寿 「八王子車人形 presents 西 Ш 古 柳 座 公 演

リエ 十一月二八日 ット」鶴 **殿澤寛也** カクシンハン「ロミオとジュ

Л

十二月十七日~「第四回 太夫の会」竹本駒之助 鶴 酒 澤津賀花 都 で 聴く女流 鶴澤 義

(二〇二一年)

竹

内

道敬先生

の思い出

二月二七日~ 「横須賀女流義太夫演奏会オ

年

勤

められた竹内 太夫協会主催

道

敬先生が、

昨

年

月 師

兀

日

「義太夫教室」

 \mathcal{O}

を

長

ンラインプレイベント」 竹 本寿 Þ 女、 鶴

本越孝、 三月三~十五 鶴澤 津 日 賀 花、 第十 鶴澤弥 口 \mathbb{Z} 女 文 Ħ 楽 公 演

竹

際

画

委員のお一人とし

て 代

をお

貸しいただきまし

濹

一去さ

れ

ました(享年

義太夫協

女 逝

流

義 企

太夫公演では、

九〇 八九歳)。

年

 \mathcal{O}

企

公 知 演

に

寛 ぐり二〇二一」竹本越 五月二二日~「神 也、 鶴澤津 L 賀 花 楽坂まち舞台・ 孝、 竹本越 春、 大江 鶴 戸 澤め

ぐり二〇二一」竹本越 五月二三日~「神楽 永坂まち! 若、 舞台・ 鶴澤賀寿 大江 戸 \otimes

鶴澤寛也、 じめての女流義太夫(ジョ 六月二一日~「義太夫節をひもとく 鶴澤賀寿 ギ!)」竹 本越 孝は

六月二六~七月十二日 演奏会」竹本駒之助、 鶴澤津賀花 「横須賀女 流 義 太夫

澤賀寿、 竹本駒之助、 九月五日「天空の黎明~ほくさい 鶴澤弥 竹本佳之助、 Z 竹本京之助、 音 楽 博」 鶴

九月七 九月二八~十月十二日 MANDALA」鶴澤津賀寿 日 「ちーむ D 鶴澤津賀和郷の会 LIVE H 「邦 南 楽 ع 青 物 Щ

十一月七日~ 語 の泉」竹本京之助、 「空から見る伝統力」 寿 鶴 澤 友

(二〇二二年)

吉

年記念公演 一月一~三一日 義 太夫協会法人化 五. + 周

> す。 ンガイド、 しゃいました。 文化教室の受講者にも多くのファンがいらっ 音楽大学教 のの と多方面 れる傍ら、 世 ると共に、 0 先生は 演劇活動など伝統芸能以外のお話をうかがお手伝いをいたしました。時折、学生時代 たことも、今となっては貴重な思い出です。 の伝統芸能・ 改めて先生の多くのご功績に敬意を表 早稲 でご活躍でした。 授、 心よりご冥福をお祈り申し上げ 新作邦楽の 文化行政への提 田大学での 長年、 放送大学客員教 邦楽研究の 作詞、 古曲会の事務局を担わ 歌 私は数年間古曲 言、 道 に入ら 舞 錦絵コレクター 4授等を 伎 歌舞伎イヤ 研 究 か 玉 6 会 ホ

(元義太夫協会・古曲 . 会事: 務 局 出 村 枝



義太夫教室六八期での竹内道敬先生

を黒ら数

義太夫協会会報 第 113 号

優 と義太夫 羚

五 回 市

伎界 に四 ŧ 二代 ときに 市 \mathcal{O} 代 革 目 目 新 を 翁 「異 市 がを名 に 譲 Ш と努め り二代目 猿 ことされ 乗 之助 ŋ は孫 その 猿 総翁となの三代 な に三 が 5 代 t 0 目 た。 目 猿 真 を 摰 之 い助 譲 に ず 歌 は り れ甥 舞 初

かで

表

タ

息子の 場にい 替 は わ て :: なると評 が性鈴 < て T なく似 きて I わって を加 ħ \mathcal{O} 初 V . る。 早 段 義 代 *ふえ、* 我太夫地 た二代 心 段 間 に二人の三番 \neg 猿 「もうい な 兀 判だった。二代 \mathcal{O} 7 1 翁 、ると、 式 稽 郎 振 いる初代と三 は 気演 さん 古 目 りになってくるくる 性 \mathcal{O} 文 の高 でしたよ」と っぺん!もうい 花 歌 楽 んが憶えな どちら 目とし 舞伎 柳 座 壽楽 夏が 舞 初 らがどち た。 は 目 代 寿 踊 愉 代 式三 いと 花 目 快 \mathcal{O} 鶴 筆 猿 柳 市 12 傑 っただん とに 者 翁 壽 5 Ш 番 作 踊 聖叟」で 道 に ż 應 か □ 段 ŋ を 間かせてんだんじれ 判ら λ 八 振 0 兀 姿 抜 生 んが 村の 現 て入れ لح 郎 形 < 4 は、出 組 親 P 娯 顔 楽 子 L W

で

て、 七 代 勤 初 翁十 る 代 道 竹 が が 目 清 八 は 種 本 竹 二人三 ごの 竹 春 意 本 兀 子 本 は 相 とそ 作 太 \mathcal{O} 代 文 生太夫・八 夫 竹 目 品 番 た 楽座 澤仲 \mathcal{O} 鶴 群 叟」「 舞 九 時 濹 \mathcal{O} 人内、 踊 清 造 代 代 特 道 を 六 • を 目 作 別 代目 行 長 代 竹 曲 出 代 初 表 +で 唄 本 演」と銘 竹 音 立する 代目 目 源 竹 掛 本 旅 が 太 本 合 綱 _ 夫、 の撰 太 竹 連 太 打小中 _ h 夫 澤 夫 彌 鍛が 初 高だ 0

> ŧ 石 え

を えて 演 さ 7

てく さっ 夫節 ラフラした」そうであ 何 歌 弾 タ 市 会 L 0 節 たらよろしい か食べてから れ で 舞 報 たことも 代 Ш いてくださる えました。『ゴ はこうです 伎 段 第 目 との 作 兀 七 猿 郎 品 兀 翁 号 は \mathcal{O} 9, 作野 兀 志度 俳 でし 行 が 曲 澤 掲 代 代 優 松之輔 かな 舞台でなさるなら 載さ ŧ 稽 で 目 目 寺 引窓」を \mathcal{O} る。 よう』とアド なさる方だか 古 語 』など長 鶴 れ 1 \mathcal{O} 0 澤 太 夫さん لح 成 て \mathcal{O} て 清 教えを お い 語 果 11 六 さん を る。 腹 って て 11 演 が お 気 \mathcal{O} 2稽古なの L 6 受 す 弟 持 11 奏 は お こうな 会で て け \mathcal{O} る ち 11 11 『義 てフ た。 写 が 兀 古 義 11 太 代真発良音は太

たことも

あるそうであ

る

目が

ため であ 竹 俳 き 脚 憶 御 な行 Ш て λ \mathcal{O} 本が لح 優 浄 見 代 え 本 お士を迎客を飽 んせ方」をは る 通 割 がしぐさで見 瑠 目 i愛して 絶えて 、述べなくても済 璃 L 演 猿 た上 という方針。 出 方 翁 とえ、 ききさ \mathcal{O} B 在 舞 \mathcal{O} は、「現代に 詞 一で見 劇 再 模 鳴 伎 11 行 11 章 物、 索し る 本せ \mathcal{O} 検 \mathcal{O} わ لح 削 作 公 な 世 流 せ 討 演 れ た。 除 で多数 V てし 竹 出 品 演 か 物 れを良くし て に意を注 そして作 む場合 う \mathcal{O} と つ的 11 本 は テン はた。 なケレ 適 IJ る \mathcal{O} 歌 まうこと 合 = 新 メ 舞 别 行 IJ 補 ポ 伎 ユ 12 は、 L 作) た 方 た 音] ン 品 ア 歌 t 研 綴 だ。 を ッ ア 演 \mathcal{O} 時 ま 義 ス 楽 究 • がル 筋 が ず プ 太 \mathcal{O} 公 演 出 間 わ 伎 極 や曲にかを多 ざ舞わ台 出もを 効 \mathcal{O} 夫 演 短 $\bar{\vdash}$ で 果縮 た狂

ち的

のざで書

め言

字に 家も た 0 た。 プに入れてください 源 津 催 を 翻 太 役 代 通 言 夫は 刻 者 巴 じ 製 目 義 さ ぶ太 作 九 て 太 れて 夫 義 り 代 大夫節 手 \mathcal{O} 太夫 を 目 工 順 公 いな 常 競 竹 が 演 \mathcal{O} 磐 狂 0 は、 本 確 \neg \mathcal{O} た。 『八犬伝』 言上 津 源 立 合 <u></u> と \mathcal{O} 菊 太 さ 間 で、 演 夫 代 れ たと 時 代 郎 目 何 代 丸 を \mathcal{O} 目 : \mathcal{O} 度 読 目 本 相 \mathcal{O} と 竹 こう カコ みた を 親 カン 談 11 咲 天 ら読 0 太 相 友 L で 頼 まれ が 活 る で テ 夫・ た 地 た あ 演 会 0

<u></u> 中に に を 九 数 語 歳 役 々代 6 \mathcal{O} を 対 代 し \mathcal{O} 目 太 せ 振 目 た。 夫に ても 指 Þ 0 は 歌 て 門閥 導 : 同様で、 を 舞 注 経 姓民界の 験を かく してくださっ 目 外 Ļ でもこ 申 積 役に 翌 年 す 一門 ま 筆 せ n 立 者 0) 育 لح つよ で は 勉 成 思う あ 強 L 会に た。 う る。 義 人 賢 . ك 竹材 最 源 出 太夫 筆 期 た 本 に + 連は

中 猿で 之 文 澤 楽 二〇二一年 \mathcal{O} 育 で 正 係 起 かは 合 助 努 成 千 5 L 7 力 L 奏 郎 な に による「 ま た L 竹 < 穐 勤 が が 本に \Diamond 結 竹 て 竹 文楽と違 兀 ま た 実 本 11 本 、る竹 小月、 移 連 研 た 籍 中 修 現 生 を 冶 惜 本 L 歌 日 た 四 が 0 起 舞 \mathcal{O} を は、 中 三 て 用 伎 残 11 心 味 皆 代 L 座 L て上 える。 て と 線 思 目 初 に に な 公 方 V 清 \Diamond お を 演 コ 0 思 六 演 7 け 門 口竹た現 さ 文 打 揃 11 る えたい ナ 本 の弟 れ 楽 兀 在、 ŋ 禍 弾の た。 座 代 き鶴 の同 連目

称 を L まし

原 筆 中 \mathcal{O} + 月 + 七 日 に 鶴 澤 正 郎

成 最 後 の が 老 覧頂けます。 太夫協会サイトの 後の舞台は二〇一〇年一月 老衰 3会サイトの「義太夫協会会報」からご2行」でした。文中の会報第七四号は義 0 ため逝去され ました。享 歌 **い**舞伎座 年 \mathcal{O} + 道 歳

+

月

+

七

日

日

蕨

市

立文化

ホ

1

ルくるる

В

舞伎義太夫 太夫 竹 本葵太夫)

正会員の主な動 き

令和三年 七月~十二月

【公演】 ※中止・延期となった公演は × 印

義太夫協会/義太夫節保存会主催 「女流義太夫演奏会」 公

七月十八日(日)義太夫協会法人化

五.

○周

×八月二十日(金)お江戸日本橋 年記念公演 紀尾井小ホール 亭 橋

亭

十月二十日(水)お江戸日本橋亭九月二十日(月・祝)お江戸日本 十一月二八日 日) 国立演芸場

十二月十九日

(日)

紀尾井小

ホ

]

ル

依頼公演・協力公演 (*印)正会員主催公演 (協会後援な (協会後援分

七月一・二日、九月一・二日、「じょぎ」*お江戸上野広小路京 七月一・二日、九月一・二 亭

十一月一日 - 二月

ぎだゆう座」*お江戸 上 野 日広 小 路

(月一・二日、十月一・二

十二月 第十六回 一・二日 花のように香れ 女 流 義 太夫 *

> 「女流義太夫と上方舞の世界」* 第十三回竹本土佐 十二月十一日 十一月二四日 十一月二三日(火)豊 次世代を担う伝 十月二九日 賀 で う伝統芸能 COT 主 (水) 内幸町 恵の 紀尾井小ホ 女流義太夫演奏 工TON CL 会 洲文化センタ ホ Ν į ル ル U

【普及】

義太夫協会主催教室

実 第七四期義太夫教 践 コー ス〕九月~三月 室 中

止

依 頼

文化庁主催「文化芸術による子供育成総合 業一学校巡回公演事業」(制作:古典空間 語ってみよう! 月十六日 十八日 七日 九 日 三次市立吉舎中学校 宇 光 広島市立城山中学 義 **教太夫節** 市立光井中学校 部 市 立川 ! 川上中学: 校 校 事

ビジョンセンター

放送】

令和三年度定期

総

会

月二九

日

(木

日

本橋 七 【運営】

七月二八日 N H K F Mラジオ (水)『増補 「邦楽の 菅原伝授手習鑑』 ひととき 松

> 線 王 屋 鶴 敷 澤 0) 駒 段 清 浄 瑠 璃 竹 本 土 佐 恵 三

> > 味

八月十一日(水)『 十二月十五日(水)『本朝 浄瑠璃:竹本越京 花 浄瑠璃:竹本綾之助 三味 本 太 線 廿 功 三味線 四孝』十種香 記 鶴澤三 尼 ケ 寿崎 鶴 澤 \mathcal{O} Þ 津の 段

正会員の今後の動

和 兀 年 月~ 六 月

公演

義太夫協会/義太夫節保存会主 催 公演

「女流義太夫演奏会」

五月二十日 六 三月二十日 二月二十日 一月二十日 八月二十 日 (日) (日) (木) お江 (金) (水) 紀尾井 お江戸日本 お お 江戸日 江 戸 戸 日 小 日 1本橋亭 本橋亭 在橋亭 本 ホ 本 橋亭 1 橋 ル

依頼公演・協力公演 正会員主催公演 (協会後援分) ((*印)

「じょぎ」*お江戸上野広小

「ぎだゆう座」* 三月一・二日、 、五月一・二日江戸上野広小路京 ・ お 江 四月一・二日、お江戸上野広山 小 路

六月一・二日

二月一・二日、

兀

「乙女文楽第十 回 定 期 公 演

月二二日 (土)・二三日 (日) Ш 崎 市 玉 際

(2022.1.1)

義太夫協会会報 第 113 号

寄 誠 付 に 左 有 記 難

寄 付 寄

入門コー

ス

豊川

稲荷文化会館

贈

林 北 のご寄付ご寄贈 操 川和彦様 うござい 様 藤 江清 ました。 児 玉 :克様 を頂 信 쥪 様 戴 宮 十音 1 崎孝徳 鈴 た 木一成 順 L じまし (掲載) 様 様 た。

第七四期義太夫教室

令和4年女流義太夫演奏会 公演予定		
日 時	会場	開演時間
1月20日(木)	お江戸日本橋亭	18時30分
2月20日(日)	紀尾井小ホール	13時30分
3月20日(日)	お江戸日本橋亭	13時30分
4月20日(水)	お江戸日本橋亭	18時30分
5月20日(金)	お江戸日本橋亭	18時30分
6月20日(月)	お江戸日本橋亭	18時30分
7月16日(土)	国立演芸場	18時30分
8月20日(土)	お江戸日本橋亭	13時30分
9月19日(月・祝)	お江戸日本橋亭	13時30分
10月20日(木)	お江戸日本橋亭	18時30分
11月20日(日)	お江戸日本橋亭	13時30分
12月18日(日)	紀尾井小ホール	13時30分

交流 セン ター ホ 1 ル

三月二七日 五一回邦 楽演 (日) 奏会」 国立 小 * 劇 場

第十八回はなやぐらの会~橋本治さんを偲 んで~」 四月十日 (日) 紀尾井小ホー

【普及】

酒处 押 文 〒131-0045 東京都墨田区押上3-10-9 Tokyo Skytreeから徒 歩8分! TEL: 03-3617-7471 E-mail: oshiagebunco@gmail.com

報 編 鶴 澤 集 (委員) 津賀花 / 鶴 竹本 澤寛 駒 也 佳 • 竹 竹 本 本越 佳 之 助 里

内藤株式会社 きむら様 (公財) 現代人形劇セ 日本芸能実演家団体協議会 豊澤雛 司 タ

+ 歌 舞 周 宮下孝弘 見台 伎研究会三 年記念公 演 田 篠 望 の 田 会 月 祝花 左太 知左 丹 野 子 衛 義 様 様 夫

様

GK-012 義太夫協会音源シリーズ(十二) 仮名手本忠臣蔵 恋女房染分手綱昭和四十四年三月二日 本教亭 重の并子別れの 祇園一力茶屋の段より本枚率 铅

CD最新作 義太夫協会音源シリーズ(十一) 好評発売中!

野

村萬

様

2021年4月6日「女流義太夫 本牧亭を聴く会」公開音源

- ・恋女房染分手綱 重の井子別れの段(昭和四十四年三月・本牧亭)
- ・仮名手本忠臣蔵 祇園一力茶屋の段(昭和四十三年十二月・本牧亭) ※竹本小津賀、鶴澤三生による特別番組(詞章付き)

価格:1,500円(税込·送料別)

<義太夫協会記録音源 復刻オンデマンドCD> 全11タイトル

壶坂霊験記·新版歌祭文·絵本太功記·御所桜堀河夜討/伊賀越道中 双六・生写朝顔話・艷容女舞衣・義経千本桜・伊勢音頭恋寝刃・近頃河 その他プレス盤も取り扱っております。 原達引・ひらかな盛衰記

お問合せ・お申込み 義太夫協会



紋付 肩衣 袴 一式承ります

すいこう苑

コバヤシ

〒 343-0044 埼玉県越谷市大泊249 TEL 080-1155-3942 FAX 048-975-2179

MAIL m-24-kobayashi-718@docomo.ne.jp



女流義太夫定期公演の 第百十六回日本素義会、令和四年初夏開催予定 - 止公演の 待ってま より お贈り申 再開 1 た! 催に 上げ .) ます。 0) 掛

け

声 を

一九六三年発足



見 令 \exists えて参りました。 止を余儀なくされましたが 和 、禍もようやく収束の兆し 年、 公演や演奏会が 三年と猛威を奮 た